

独自問題 国語 対策法

1. 言葉は世界を認識する仕方であり道具です。

○語彙をふやしなさい。

(甘いと美味しい、楽しいと充実感がある、普通と一般、一般と普遍……)

○漢字の訓よみ、送りがなの付け方、篇の意味を知りなさい。

○辞書がひけるように。

用言や助動詞の活用、漢字の総画数(楷書で書けること)に注目。

○きちんとした字を書きなさい。

「ゆ」と「れ」、「い」と「ひ」、「ツ」と「シ」などは明瞭に。

2. 他者の言葉(＝言いたい考えや思い)をことばのきまりに即して捉えなさい。

○言いたいこと(中心文)と、解説(例示や言い換えや説明)と、理由とを見分けること。

○そのために、くは、くも、かかり受け、指示語、つながりの言葉(特に逆接)に注意すること。(これは選択肢の読み取りでも同じです。)

○同義語、対立語をつかむこと。

○各段落の、全体構成上での意味をつかむこと。

○全体を120字程度で、さらに60字程度でまとめてみる。

3. 捉えた枠をはずれないようにして、自分の考えを表現しなさい。

○問いは、「どういうことか」と「なぜか」の二つが中心です。

○答え方では、書き出しと着地とに気を配ること。

(特に「なぜか」の答え方の書き出しは大切です。)

(着地とは、答の末尾辺りの表現のことです。心情の問いでは、着地が心情を示すものであるべきです。)

4. 全国高校入試問題正解を解いてみるとよいと思います。

読書は充実した人間をつくり、書くことは正確な人間をつくる。